

第3章

防犯教室の開催

危険予測能力・危険回避能力を身に付けさせる防犯教室

幼児児童生徒が犯罪や事故に巻き込まれないようにするためには、安全マップの作成・活用を図ったり、防犯訓練・防犯教室等、日常的に不審者対応に関する指導を通したりしながら、危険予測・危険回避への意識や能力を高めていくことが大切です。

この章では、不審者対応に関する指導の充実を図るために『防犯教室』の実施を通して、危険予測能力や危険回避能力を高め、万一の場合に対応するための実践的な対処方法を身に付けさせ、事故の未然防止へつなげる事例を取り上げました。

『防犯教室』の実施にあたっては、警察官や防犯の専門家の協力を得ながら、具体的な場面を設定し、事故の未然防止のために実践的活動の導入を考える必要があります。ここでは、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の各校種における『防犯教室』の具体的実践例を紹介します。

身に付けさせたい
危険予測能力
危険回避能力

<幼稚園>

日常の生活の中で、幼児自ら安全な行動をとる。

<小学校>

犯罪に巻き込まれないように、具体的な場面での対処方法を身に付ける。

<中学校>

犯罪に合わないために危険を予測し、未然に身を守るための行動を身に付ける。

<高等学校>

犯罪被害や危険に関する現状を理解し、交通機関等を含めた被害防止方法を身に付ける。

関係協力機関
連携機関

関係協力機関

- ①管轄の警察署生活安全課
- ②子供アシストセンター
- ③各区の少年育成指導室
- ④スクールガードリーダー

連携機関

- ◎まちづくりセンター
- ◎町内会
- ◎子ども110番の家
- ◎コンビニやタクシー等

1 幼稚園における防犯教室

幼稚園においては、日常の生活の中で、幼児自ら安全な行動をとることができるように指導することが大切です。特に幼児期は人への信頼感の基盤を培う時期であるため、極度に恐怖感を与えるような指導は避け、指導内容に留意する必要があります。

あわせて、自分たちをたくさんの大人が守ってくれているということを伝えることも大切です。

身を守る
ために…

(1) 学級活動や集会などで年間を通じて、計画的に防犯教育を実施する

避難訓練の実施

- ・不審者の侵入から身を守る訓練
- ・警察署の方の立会い及び幼児への指導



生活安全指導の実施

- ・夏休みや冬休みの安全な過ごし方
- ・不審者から身を守る行動（誘拐や性犯罪防止）

指導の中では、視覚的教材を活用し、具体的な場面を想定して身を守る方法を伝えます。

お母さんが、呼んでるよ！



紙芝居を活用して指導している場面

ビデオや紙芝居を貸し
出しています

- ・視聴覚センター
- ・市・区の図書館
- ・管轄の警察署生活安全課
など

視覚教材の
活用

「お菓子をあげると言われたら？」



人形劇やペープサートでの指導

訓練を通して
(不審者対策)

幼児には様々な状況で危険を回避できる力を身に付けさせたいものです。すばやく安全に避難させるために、教職員は、どのような状況にも対応できるように、日頃から防犯に対する意識を高めておく必要があります。

＜園児に訓練を通して身に付けさせたいこと＞

- ・ベルが鳴ったら近くの先生のところに集まる。
(先生の側にいれば安心である。)
- ・近くの先生の話(放送)をよく聞いて行動する。
- ・状況によっては室内に逃げる場合もある。
- ・大きな声を出す。

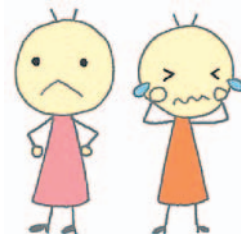


紙芝居を活用して指導している場面

＜大きな声を出す練習＞

教師が不審者役になり、実際に大きな声を出す練習をしてみることも効果的です。

たすけて



やだよ!

たくさんの大人に守られているという安心感をもたせるために、地域の方々の協力を得て指導することが大切です。

- 管轄の警察署生活安全課
- スクールガードリーダー 他

実際に不審者役になってもらう場合もある。



地域との協力

保護者との
連携

幼児期においては、大人と行動を共にすることが多いため、保護者の防犯に対する意識を高めることが大切です。幼稚園で指導している内容を伝え、家庭と連携しながら進める必要があります。

＜保護者に協力してほしいこと＞

- 一人遊びをさせない。
- 保護者は、時間をおかずすぐに、警察に「110番」通報をする。

＜家庭でも子供に伝えてほしいこと＞

- 知らない人について行ったり、知らない人の車にはどんな理由があっても絶対に乗ったりしない。
- できるだけ大きな声で「嫌だ」と言って助けを求める。

2 小学校における防犯教室

小学校においては、警察官や防犯の専門家の協力を得ながら、具体的な場面を設定し、実践的な対処方法を身に付けさせる防犯教育を進めていく必要があります。特に登下校時の危険予測、声をかけられたときの答え方、助けの求め方、逃げ方など、ロールプレイング等の手法を活用しながら学ぶことが大切です。

(1) 警察署生活安全課の方に来ていただき、全校児童を対象に実施

登下校時の危険を知る

登下校時にも様々な危険がある

知らない人に声をかけられる

駐車場や工事現場は見えにくい場所



友達と別れて一人になる時

街灯がない暗い通り

いつもと違う人通りの少ない道を帰る

いつも登下校する道にも、たくさんの危険があることを警察署の方に話していただきます。

知らない人に誘われたとき、どう答えますか

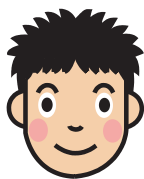
お母さんが交通事故にあったよ。
おじさんが病院に連れて行ってあげるから急いで車に乗って！

家に帰って確認します



被害に遭わないために

自分で先生に聞いてみます



先生が君を捜していたよ。
さあ、早く乗って。

知らない人が話しかけてきたとき、また、いろいろな誘いの言葉をかけられたとき、自分ならどう答えるかを考え、具体的に答え方を練習します。



怖いと感じたとき、どうしますか

被害に遭ったら

触られたり、抱きつかれたりしたとき

無理に連れて行かれそうになったとき

お金を出すように言われたとき

できるかな？



防犯ブザーを鳴らす



大声をあげる

知らない人が、突然襲いかかってきたとき、大声を出して助けを求めたり、逃げ出したりできるように練習しておかなければなりません。また、防犯ブザーは、危険な時にすぐに使えるように練習が必要です。電池が切れていないか、時々確かめましょう。

「助けを！」と叫びながら、すぐに逃げる



子ども110番の家



コンビニ



学校・交番

その場から逃げた後、『子ども110番の家』やコンビニに駆け込むことを想定し、普段から通学路にある「助けを求められるところ」に目を向けておくことの大切さを実感させます。

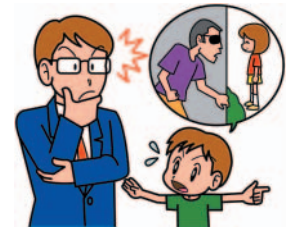
すぐに知らせる

- 自分の名前
- いつあったのか
- どこであったのか
- どんな人に
- 何をされたのか

何をどのように伝えることが大事なのかを具体的に練習します。

こんな時も大人に知らせよう

- ・知らない人に声をかけられた
- ・見かけない人が子供たちを見ていた



助けを求める

正しく知らせる

合い言葉は「イカのおすし」



いつも 守ろう！ イカのおすし

- 知らない人にはついていかない
(知り合いの人でもおうちの人にことわってから)
- 車にはのらない
(わるいさそいにもものらない)
- おおごえをあげる (こわいめにあったら「たすけて！」)
- すぐになげる (なるべく人がいる明るいほうへ)
- くわしく大人にしらせる

※「イカのおすし」は警視庁が作成した標語です。

3 中学校における防犯教室

中学校においては、犯罪被害や危険に関する現状（携帯電話等ネットワークの危険情報も含む）を踏まえ、防犯教育を進めていく必要があります。特に、犯罪防止のための日常的行動、危険の予測、発生時の冷静な行動、助けの求め方、通報の仕方などは実演、実習を交えて具体的な対処法を学ばせることが大切です。

関係機関との
連携

被害の実態を
あらかじめ知る

被害に遭わな
いために

(1) 体育館で全校生徒を対象に、警察署生活安全課の方を招いて実施

まず、校区内での少年被害の実態を知ることが必要です。そのためにはあらかじめ生徒指導担当の教師からの話を聞くとともに、管轄の担当警察署生活安全課の方からの具体的なお話をしていただきます。

警察以外には、各区の少年育成指導室等がある。



警察署の方からのお話

不審者と距離をおく

次に、具体的な対処法を学びます。不審者や変質者から後をつけられていると感じたら、後ろを振り返ってみたり、防犯ブザーを持っている場合は、防犯ブザーを見えるようにするのが有効です。

また、道を尋ねられたときは、下の写真のように不審者と距離をおくことによって、自分の身を守ることができます。



腕の長さ2つ分離れよう

腕を伸ばして2つの分の距離をとる。もし相手が一歩近付いても自分が一歩下がれば、腕を捕まれる可能性は低い。

車の進行方向と逆に逃げる

車の中から写真を撮られたり、声をかけられる事例が多くあります。また、車の中に引き込もうとする事例も報告されています。

こうした事故を回避するためには、車のドアのそばには近寄らず、反対側の道を歩くようにします。あとをつけてくるようなら車の進行方向と逆に逃げることです。



被害に
遭ったら

身を守る方法

■背後から両手をかけられた場合



相手の小指を思い切り引っ張るのも有効な方法



両手を上にあげる



すぐにしゃがんで逃げる

助けの呼び方

大声を出す



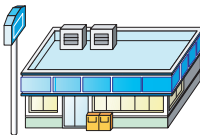
■「警察を呼んでください」等の具体的な言葉

民家に逃げ込む



■「子ども110番の家」など

コンビニ
ガソリンスタンド
タクシーに助け
を求める



■普段から通学路にある建物をチェック

110番通報をする



■携帯からの110番

110番通報

- ①何があったのか。
- ②どこであったのか。(住所や近くの建物など)
- ③いつあったのか。
- ④不審者の情報は。(人相、体格、特徴、車種やナンバー)
- ⑤今、どうなっているか。
- ⑥自分の名前、住所、電話番号。

実際に被害にあった場合はもちろん、不審な人物を見かけた際にも警察へ連絡をすることは大切です。

4 高等学校における防犯教室

高等学校においては、様々な場面において不審者に遭遇した時の対処法、さらに不審者から未然に身を守るための行動を理解し、身に付けておくことが大切です。

遭遇したら

(1) 講堂で全校生徒を対象に、教師が実演を交え実施

(指導者・・・生徒指導部 不審者・痴漢役・女性役・・・教師)

- 近づかない ○離れる・逃げる ○車の進行方向と逆に逃げる
- 大きな声で助けを求める。「警察を呼んでください！」
(「助けてください」と言っても、なかなか助けることができない。
周りの人も怖い。)
- 「子ども110番の家」・近くの家・コンビニなどに助けを求める。
- 携帯電話を持っている時は逃げながら110番通報する。
- 携帯電話を持っていない時は公衆電話から赤いボタンを押して110番する。
- 防犯ブザーを鳴らす(笛も有効)。

《手を引っ張って連れ去られそうになった時》



①片手で引っ張られた時は



②自分の腕を上には振り上げる



③下に振り下ろす



④両手で引っ張られた時は



⑤一歩前に踏み込んで、腕を振り上げる



⑥自分の方に引く

未然に身を守る行動

登下校時、家庭からの外出時

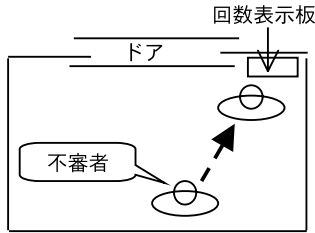
- 友人と一緒に登下校する。(複数で行動する)。
- 人通りの少ない場所は通らない。(特に夜間は回り道してでも明るい道を通る)。
- エレベーターに乗った時の立ち位置に注意する。

《エレベーターに乗った時の立ち位置》

ア. 悪い例



①階数表示板に向かって立っていると…

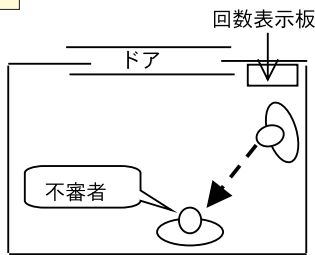


②自分の後ろにいる人が見えず、襲われるまでわからない

イ. 良い例



③階数表示板に対して直角に立っていると…



④自分の後ろにいる人の様子が見える

- 歩く時は車道に近付かない。
- むやみに携帯電話の番号を教えない。
- 普段の登下校の道順や友人を保護者・学校に伝えておく。
- 外出時は目的・行き先・帰宅時間・同伴者を家の人に伝える。
- 日頃から地域の人と挨拶や会話を交わす。
- 不審者を見かけたら、何もなくても家の人、友達、近所の人、先生、警察に伝えておく。

交通機関の中で身を守る行動

地下鉄・バスに乗っている時

- 出入り口付近は痴漢が多いので中間部に乗る方がよい。
- 車内で痴漢にあったら、さりげなく持ち物等で相手の手を払う。

《バス・電車の車内で痴漢にあった時》



さりげなくカバンなどで痴漢の手を避ける

この人痴漢です！



それでもダメならその手をつかんで、大声で！

校内で身を守る行動

校地内で来校者カードを付けていない知らない人を見かけた時

- すぐにその場を離れる。
- 近くにいる職員に連絡をする。
- 安全な場所で指示があるまで待機する。

防犯教室の開催



困ったときは、こども110番の家！



不審者はグラウンドの外にいる場合も？



警察官からの説得力あるお話



不審者の侵入が治まった後の2次避難